



## 皇居乾通いの一般公開

E-71

SCE-Net 横堀 仁

発行日  
2014.12.12

紅葉観賞の好機に合わせた企画で、12月3日～12月7日までの5日間に、天皇陛下の傘寿を記念して皇居乾通いの一般公開があった。春のお花見シーズンにも公開されたが残念なことに参加できなかったのが、今回は張り切って公開初日に参加した。開場30分前の9:30には、入門口である坂下門へ到着すべく埼玉の自宅から足を運んだ。東京駅に9:00に到着した。しかし、既に丸の内中央口から皇居へと人の群れが向かっている。大変な混雑と行列待ちが懸念されたが、道に迷わずに到着できるとの安心感も湧いてきた。東京駅からは、皇居に向かって進み、日比谷通りを渡ってそのまま直進し、更に内堀通りを渡れば20分程度で坂下門へ到着できる。ところが、内堀通りを渡ったらすぐに強制的に左折させられ、道に沿って桜田門の方まで進み、皇居前広場を大きく迂回して戻ってくることで1km以上も余分に歩かされることとなった。混雑緩和策として警備上妥当な処置であったのだろうが高齢の参加者にはかなりの負担となったのではなかろうか。結局、坂下門前の手荷物検査ゲートを通り、乾通りへ入場するまでの待ち時間を加えると東京駅から1時間程度を要した。

坂下門をくぐって道なりに少し進むと、左手に、宮内庁の庁舎が立っている。宮内庁の更に左手奥に新宮殿の一部がみえる。もともと、「宮内庁御用なし」の身であるから、庁舎前を素通りして先へ進む。そこには、道幅10m程度、長さ750mの乾通りが連なっている。道路の右側は城壁や堀を隔てて東御苑（旧本丸）が、そして左側は宮殿関係の施設（旧西丸）である。通りの両側にさくら、もみじ、アカマツ、クロマツが程よく色づいて並んでいる。空の青さと紅葉の彩りが実に鮮やかで、そこかしこでカメラに収めている人が多い（末尾の左写真参照）。撮影に熱中して少し一カ所に立ち止まっていると、「後の人の迷惑になるから立ち止まって写真を撮るな」との警官の声が躊躇なくあちらこちらから飛び交ってくる。まさか、歩きながら写真を撮る訳にもいかんではないかと思う。こんな人混みの中で、長時間占有するはずもなく、無用の注意はどこか滑稽ではあった。人の流れは整然として大きな混乱は特にないが、団体客の中にはた大人の迷子が多発しているようである。

出口近くで、コースは二手に分かれる。右手に折れて西桔橋を渡って東御苑へと抜けるか、あるいは乾通りをそのまま直進して乾門をくぐって北の丸公園方面へと抜ける。私は、

直進して乾門からでて右に大きく迂回して北桔橋から東御苑へ逆流した。東御苑に入るとすぐに江戸城天守閣跡がある。乾通りの見物を終えた客が立ち寄るので、ここはすごい人出であった（末尾の右の写真参照）。東御苑の西縁を蓮池濠に沿って、濠を隔てて乾通りと並行する小高い並木道がある。こちらの桜、もみじの紅葉も美しい。ほとんど人ごみが無いのも良い。暫く行くと、松之廊下跡にでる。富士見櫓までぶらついたあと大手門から東御苑の外に出て再び東京駅に戻った。暖かい日差しの中、のどかで楽しい3時間のぶらぶら散歩であった。ニュースでは5日間で述べ35万人の人出とのことであった。乾通りの滞在時間を平均30分間とすると、7,500m<sup>2</sup>の乾通りに7,500人がいたことになる。人口密度にすると、1m<sup>2</sup>あたり一人である。この人混みをどう感じるかは人それぞれではあるが、私には、ほどほどの待ち時間とまあまあの人混みという感想であった。傘寿のみと言わず、毎年続けて欲しい企画である。



乾通りの紅葉



天守閣跡に流れた人混み